みんなで取り組もう
土岐川・庄内川の流域治水 中流域編

学習指導・発問計画

令和５年度（案）

土岐川・庄内川流域治水協議会
国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所

「みんなで取り組もう　土岐川・庄内川の流域治水（中流域編）」
学習指導計画

目　　次

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2. 指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

3. 発問計画・学習教材（４時間の場合）・・・・・・・・・・・・・　3

4. 発問計画・学習教材（２時間の場合）・・・・・・・・・・・・・　10

1　はじめに

近年の甚大な水害の発生状況や極端な気象状況を踏まえると、「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生する」「水害へのそなえは、地域のあらゆる人が取り組むべきこと」との認識を、一人一人が持つ必要があります。

本学習教材（案）は、

- ✓ 児童自身が「水害時に自分の命を守るためにできること」を自ら考えること
- ✓ 「水害に備えるために、地域のみんなが協力して取り組むこと（流域治水）において、自分ができること」を自ら考えること

を主眼において構成しています。

また、学校や周辺地域が想定される浸水地域外である場合であっても、児童が将来引っ越しした場合や、他の地域で水害を経験することも考えられるため、その時の心構えを学ぶ機会として活用いただけるものとしています。

2　指導計画

【 目標 】

【流域治水について学ぶための目標】

■「自分の命を守るためにできること」を考える

■「地域のみんなで取り組むこと（流域治水）において、自分ができること」を考える

【 本教材の活用方法の例 】

- ✓ 本教材の対象学年は 4 年生～6 年生を想定しています。
- ✓ 自主学習・自主研究に活用する際には、「考えてみよう」「もっと知ろう」などのコーナーを学習テーマとすることができます。関連する web サイトへのリンクで学びを深めたり、自ら考えたり、調べたりすることもできます。また、副読本に記載されていないその他関連する情報サイトや、各関係機関の窓口などは、「教員向けガイド」に記載しています（ただし、子ども向けにわかりやすく説明した内容の情報でないものも含みます）。
- ✓ 理科、社会などの教科では、各単元の授業において、関連する写真や資料として部分的に活用することも可能です。関連する単元は、「教員向けガイド」に記載しています。各単元の「調べる」段階において、参考資料として活用することもできます。
- ✓ 総合学習などの防災授業として、副読本にそって 4 時間構成の授業に活用することも可能です。（3 発問計画は、4 時間構成での授業の流れの案を示しています。）なお、授業案をアレンジして、2 時間構成などで授業を行うことも可能です。（4 発問計画は、2 時間構成での授業の流れの案を示しています。）

＜めあてと学習ポイント＞）４時間の場合

1 時間目
めあて：川のめぐみ、この地域と川にかかわる「とくちょう」をかんがえよう
学習ポイント　【 】は副読本のページ □【p. 1-2】川の周りの身近な地域を想像し、「流域」に含まれる範囲をイメージする □【p. 3-4】川はめぐみをもたらすものであること（生きもののすみか、人々の河川利用があること）を学ぶ □【p. 5-6】流域とは、「川に水の集まる範囲」＝「この範囲に雨がふったら、庄内川に流れてくる」地域であることを学ぶ。 □【p. 7-9】地形の特徴から、山に囲まれた盆地地形の低いところを流れるため、水のあつまりやすい地域地形であること、そのため、急激に水位が上昇する可能性があることなどを学ぶ
１　わたしたちの土岐川・庄内川流域 (1)　土岐川・庄内川ってどんなところ？ (2)　「流域」ってなに？ (3)　庄内川中流域のとくちょう
2 時間目
めあて：水害が起きた時に、身の回りでどのような危険があるのか考えよう
学習ポイント □【p. 10-14】平成 23 年 9 月台風第 15 号豪雨について学ぶ。水害時に起こる危険や、他者・地域にどんな困りごとがあるかを考え・想像することで、その後の授業において「わたしたちがとるべき行動」を考える際の土台をつくる。 □【p. 17-21】中流域でおこりうる水害を学ぶ
２　水害時における危険 (1)　平成 23 年 9 月台風第 15 号豪雨ではどんなことがおこった？ (2)　この地域ではどんな水害に気を付けたらいいの？
3 時間目
めあて：水害が起きた時に、わたしたちがとるべき行動を考えよう
学習ポイント □【p. 22-24】水害により生じる身の危険性を学ぶ。 □【p. 25-31】ハザードマップでの確認の方法、どのようなところでは避難が必要か、どこに避難するかの考え方を学び、家庭で家族と一緒に確認できるようにする。
３　水害時にわたしたちがとるべき行動 (1)　水害がおこるまでの身の回りの変化 (2)　おうちの人と調べてみよう
4 時間目
めあて：被害を少なくするための「そなえ」＝流域治水を知ろう
学習ポイント □【p. 32-33】水害へのそなえや、治水対策を行うために、さまざまな人が取組を行っていることを学ぶ □【p. 34-37】協働での取組である「流域治水」をもっと推進する必要がでてきたこと、自分たちは何ができるかを考える。
４　みんなで取り組む水害へのそなえ (1)　みんなで取り組む「流域治水」 (2)　地域の人との助け合い

3　発問計画・学習教材【４時間の場合】

１時間目　わたしたちの土岐川･庄内川流域

本時のねらい（目標）

児童たちの近くにある川の周りには、さまざまな地域があり、様々な利用をされていることを学ぶとともに、「流域」の概念について知る。また、２時間目につながるよう、中流域（あるいは児童の住む地域）の土地の成り立ちや地形上の特徴を知る。

※学習内容や活動内容の［　　］は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
導入 （15 分）	1. P1・P2 の地図を見て、土岐川・庄内川・矢田川の周りにあるさまざまな地域について、意識を向ける。 発問：【P2 考えてみよう】 みなさんの学校の近くを流れている川を知っていますか？ 土岐川・庄内川・（矢田川）の周りには、さまざまな地域がありますね。 みなさんは、どんな地域に行ったことがありますか？ ・名古屋城の近くの堀川でお花見をした ・土岐で川遊びをした　等 2. P3・P4 の写真を用いて、どんな利用をされているか表現し、川は、利用されるだけでなく、文化や生き物のすみかとしての役割をもっていることを確認する。 発問： 川は、どんなことに利用されているか知っていることはありますか？また、遊びにいったことはありますか？ ・祭りにいった ・庄内緑地公園で遊んだ　等	・川の周り（流域の範囲）の身近な地域を想像し、「流域」に含まれる範囲をイメージする ・川はめぐみをもたらすものであること（生きもののすみか、人々の河川利用があること）を学ぶ	
展開① （10 分）	3. P5・P6 にて、「流域」の概念の学ぶ。 理科の天気・社会の上下水道などで学んだことを関連づけ、「水の循環」に関係する地域であることを認識させる。 （P1・P2 の地図に戻って、どのような範囲が「流域」なのか、再度確認する）	・行政区域とは異なる範囲であること、「川に水の集まる範囲」＝「この範囲に雨がふったら、庄内川に流れてくる」地域であることを学ぶ	
展開② （15 分）	4. P7～P9 にて、中流域の川の周りの特徴を学ぶ。 発問： 色のぬられているところは、それ以外のところと比べるとどんなところでしょう？ ・●●は川の周りより高いところにある（地域内の高低差について）　等	・山に囲まれた盆地地形の低いところを流れるため、水のあつまりやすい地域地形であること、そのため、急激に水位が上昇する可能性があることなどのとくちょうを学ぶ	・重ねるハザードマップ３D などで、川の周りの様子をみる
終末 （5 分）	4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。	・川の危険な一面よりも川の良さを主に伝える。	

2時間目　水害時における危険

本時のねらい（目標）

水害時における自分自身の危険を、写真などから自由に想像し考えることを通じて、水害の危険性はわが事であることを理解する。

※学習内容や活動内容の[　　]は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
導入 （5 分）	1. P7～9 で、この地域は盆地の低いところに川が流れていて、水があつまりやすいところだと学んだ。 発問： この地域では、川の周辺に水があつまりやすいこと、土砂災害などにも注意が必要なことを学びました。 では、実際に土岐川のまわりで水があふれたことはあると思いますか？ ・あふれることはあったと思う、 ・家が浸水したことがあると家族がいっていた 等	・地域の特徴をふまえたうえで、実際に水害がおきたときの様子や困りごとを考えることを意識させる	
展開① （15 分）	2. P10～にて、平成 23 年 9 月台風第 15 号豪雨について学ぶ。 水害時に起こる危険や、他者・地域にどんな困りごとがあるかを考え・想像することで、その後の授業において「わたしたちがとるべき行動」を考える際の土台をつくる。 発問：（P11　考えてみよう） どんなことが起きたのか、どんなことに困ったか、大変だったかを考えてみよう （例は P38 にも記載） ・車が水没した ・病院にいけなくなった人もいた 等 発問： この浸水しているお家がみなさんの友達や親せきの家だったら、どんなことに困っていると思いますか ・家の中がぐちゃぐちゃになって生活できない ・閉じ込められてるかもしれない ・停電して連絡がとれないかもしれない	・水害が自分たちの生活や身の回りに影響を及ぼす可能性を考え、自分事ととらえる ・土岐川から水があふれたのではなく、土岐川に入りきれなかった支川の水があふれた	

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
展開② （15 分）	3. P17～にて、中流域でおこりうる水害を学ぶ 発問：（P17　考えてみよう） 水害の種類ごとに、どんな危険があるか、どんな違いがあるか考えてみよう （例は P38 にも記載） ・（内水）車が水没する ・（内水）地下に水がながれこむ ・（外水）家がこわされる ・（土砂災害）道路も破壊されて、家や車も流される 等	・水害によって、要因や発生場所は様々であること（必ずしも川の周りだけでないということ）、その中でも、中流域でおきやすい水害について、学ぶ。 ・内水はんらんでも命の危険があること、内水はんらんのあとに、外水はんらんが起きる場合があることを学ぶ。	P20　もっと知ろう かつての土地利用状況から、浸水しやすい地域かどうかを知る（水に関わる地名を調べる） ・地理院地図（治水地形分類図）
終末 （10 分）	4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。 主発問： 水害がおこったときに、私たちが困ることは何でしょうか。 ・車や家が水につかって、生活できなくなる ・家の中にいても、水害で家がこわされることもある　等	・水害が起こった時にとるべき行動を考えることができるように、「水害がおこるとわたしたちはどのような点で困るのか」を想像できるようにする。	

3時間目　水害時にわたしたちがとるべき行動

本時のねらい（目標）

水害時におこる自分自身の危険を、順を追って理解することを通じて、水害時のとるべき行動を自ら、あるいは家族と考えることで、具体的な水害時に必要な行動を理解する。

※学習内容や活動内容の［　　］は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
導入 （5 分）	1.「内水はんらん」と「外水はんらん」で、水のちからが違うこと、内水はんらんの後に外水はんらんがおきる場合があることを学んだ。 発問： みなさんが一人でいるときや、家や学校以外で過ごしているときにも、「内水はんらん」や、「外水はんらん」がおきるかもしれません。 大雨がふったときに、どうしたらよいか、家の人と話をしてきめていますか？ ［・親は仕事ですぐに帰ってこれないから、スマホに連絡する　等］		
展開① （15 分）	2. P22～P24 にて、水害により生じる身の危険性を学ぶ 発問：【P22 考えてみよう】 雨が降ったとき、まわりのようすはどのように変化するでしょうか。そして、わたしたちにどのような影響があるでしょうか。（P23～24 の表から読み取る） 表から、こんなときはどうしたらよいと思いますか ・家にいるときに、「はげしい雨」がふってきた ・友達の家や習い事など、家以外で、「はげしい雨」がふってきた ・外にいるとき、いつも通っている道に、水がたまっていた ［・家にいるときに、「はげしい雨」がふってきた ・友達の家や習い事など、家以外で、「はげしい雨」がふってきた →おうちの人と連絡をとって、すぐにやむような雨かどうかしらべてもらう →ながびくような雨のときは、今いる場所が安全なところか、おうちの人や一緒にいる大人に確認してもらう →安全でないときは、大人と一緒に、安全な場所に移動する ・外にいるとき、いつも通っている道に、水がたまっていた →いつも通っている道でも、水が深くたまって足元が見えない場合は、無理にとおらない　等］	・水害は、いきなり起こるのではなく、雨や川・まわりのようすが変化していくことを学ぶ ・大雨は、数分ですぐやむ場合は、一部で内水はんらんが起きたり、小さい川の水位が高くなることはあるが、大きい川の水位が高くなることは少ない ・しかし、大雨が数時間続くなど、長引くと、大きい川の水位もあがり、外水はんらんがおきる可能性がある →よって、今後の雨の様子や、まわりの様子を調べて、避難できなくなる前に避難することが大事	※【用語】線状降水帯 同じ場所で大雨が降り続く場所のため、洪水害などの危険度が急激に高まり水害がおきやすい 気象庁からは、線状降水帯が発生したとき、また、30 分以内に発生すると予測されたら、情報をだして、警戒をよびかけることにしている

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
展開② (20 分)	3. P25～P31 にて、ハザードマップでの確認の方法、どのようなところでは避難が必要か、どこに避難するかの考え方を学び、家庭で家族と一緒に確認できるようにする。 【用意するもの】 ・洪水・（あれば）内水ハザードマップ （該当地域のものを紙で印刷） ・確認した結果を記載する用紙 （ワークシート） ・筆記用具 【確認手順】 ・P26～の①～④を、ハザードマップで確認する。 ・ワークシートのフローに沿って、⑤の「大雨のときにとどまっていても安全な場所」か確認する ・P29～の⑥危険な場所の場合は、避難先をさがす（フローに従い、指定避難場所以外も想定する） 発問：(P29　考えてみよう) 地域の人みんなが避難場所にいったら、避難場所は満杯になってしまいます。 地域には、遠くに移動できない人たちもいます。 そのような人たちも、全員が安全な場所にいられるようにするにはどうしたらよいでしょうか？ ・マンションの上の階が安全な人は避難場所にはいかない ・従妹の家が浸水しないところにあるから、道路が浸水する前に車で行って、避難させてもらう ・となりに住んでる、一人暮らしのおばあさんに声をかけて、一緒に車で避難する 等	・家で確認するときは、紙がない場合でも、インターネットで、「わがまちハザードマップ」からも確認できることを、おうちの方に伝えるように促す ・避難先は、家の事情や移動手段もあるため、おうちの方と相談することを推奨 ・道路が浸水しはじめている場合、移動にも危険がともなうことを再度確認する ・体育館などの「避難場所」にいくことだけが「避難」ではない。安全・備えを確認して、垂直避難（マンションなどの建物の上への移動）や、知り合いの家に身をよせることも「避難」であり、地域の方々への思いやりになる （P30 の※に記載）	・ハザードマップポータルサイト ・ワークシート ・避難が必要か、どこに避難するかがわかったら、「いつ避難行動をとるか、何をするか」もきめておくことが望ましい→「マイ・タイムライン」の作成を推奨（作り方は、下記で確認可） ・岐阜県　災害・避難カード ・逃げキッド（全国版）
終末 (5 分)	4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。 主発問： 避難したほうがよいか、どこに避難するかは、各家庭によって違います。それぞれのおうちで確認することが大事です。	・おうちの方と、自宅の状況を確認し、どこに避難するかを考えることを宿題等にすることで、児童と保護者が安全について話をするきっかけづくりとする	

4時間目 みんなで取り組む水害へのそなえ

本時のねらい（目標）

水害を起こさないように、また、被害を拡大させないようにする対策は、地域のさまざまな人びとが関わっていることを学び、自分たちには何ができるかを考える。また、自分たちを含む地域の人々が協働して水害にそなえる・水害をへらす取組が「流域治水」であり、取組を進めるために他者への思いやりが大切であることを学ぶ。

※学習内容や活動内容の［　　］は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
導入 (5 分)	1. 水害へのそなえ・減災のための取組について考える 発問： ハザードマップで、川があふれると広い地域で浸水することがわかった 水害がおきないようにしたり、水害による被害をおさえるため、また、命を守るに、どのような取組が行われているでしょうか ・堤防をつくる、遊水地をつくる ・避難指示をだす ・ハザードマップをみんなが確認して避難する	・取組は１つでは無く、いろいろな取組があることに気づく	
展開① (10 分)	2. P32～33 にて、水害へのそなえや、治水対策を行うために、さまざまな人が取組を行っていることを学ぶ 主発問： 水害による被害をおさえるために、どういう人たちがいるでしょうか。 ・川を管理する人、ダム等の操作をする人、天気を予想する人、避難情報を発令する人、情報を伝える人、地域の人の避難を手助けする人 主発問： もし水害がおきてしまったときには、どんな人たちが活動しているでしょうか。 ・水を排水する人、救助する人、片付けを手伝う人、ボランティアの人	・導入で挙げられた意見をまとめながら、いろんな人たちが地域のために取り組んでいることを学ぶ。	資料 02_水害へのそなえに取り組む人々 （P32～33 の写真だけをみて、何をしている人たちかを考える）

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
展開② (15 分)	3. P34～36 にて、協働での取組である「流域治水」をもっと推進する必要がでてきたこと、自分たちは何ができるかを考える。 主発問： いろいろな人々が取組をしているけれど、最近は大雨がふえていて（P34 のグラフ）、被害も大きくなっています これまでの取組だけでは足りなくなってきているので、もっと地域のみんなが一緒になって行う取組が必要です。そのような取組を「流域治水」と言います。 （P34 の図で、どんな取組があるか、クイズ） （P36　考えてみよう） わたしたちが、家や学校でできる流域治水の取組は何があるでしょうか？ ヒントは、「ふだん水(みず)を多(おお)く使(つか)うこと」「水害(みずがい)へのそなえ」です。 （例は P39 にも記載） ・大雨のときは、お風呂のお湯を流さない、洗濯を後にする （家庭から流す水の量をへらす） ・ハザードマップを確認したり、避難の準備をする、避難のためにどんな情報を確認するか前もってしらべておく ・いきもの調査や、川遊びなどに参加して、もっと川のことを知る P37 にて、地域との助け合い（災害弱者への声かけ、一緒に避難するなど）も、自分達のできる取組であることを伝える。	・地域を守るために多くの人々が取組をおこなっている、自分達もできることを考えることで、「流域治水」の取組を自分事として考える	資料 03_流域治水の取組紹介 ・P34 のグラフ【関連：5 年生算数の平均の考え方】 ・P34 の流域治水の主な取組の例（青字）についてのクイズ
終末 (10 分)	4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。 主発問： わたしたちができる流域治水の取組はなんでしょうか ・事前の確認（ハザードマップ、避難場所、情報、どう行動するかを家族と確認） ・大雨がふったときは、連絡をとる・今後の雨の情報を知る ・危険な場合は避難 ・周りに避難の手伝いが必要な人がいたら声をかける ・大雨のときはお風呂のお湯をながさないようにする	・水害で被害にあわないためには、事前～大雨時に、行動をとることが大事であることを伝える。 ・ふだんから、川に流す水の量をへらすためにできることを考えたり、自分達できる取組をする「流域治水」は、『地域への思いやり』の取組であることを伝える。 ・将来、どんな地域に住むことになっても、学んだことを思い出せるように、おうちでも、大雨がふりそうなとき、梅雨や台風の時期の前などに、見直してほしいことを伝える。	

4　発問計画・学習教材【２時間の場合】

１時間目　わたしたちの土岐川･庄内川流域、水害時におこる危険

本時のねらい（目標）

児童たちの近くにある川が、さまざまに利用されていることを学び、川の恵みを知ったうえで、川は時として危険な状況になることを知る。また、水害がおこった場合、身の回りでどのような危険が生じるか児童自身が考える。

※学習内容や活動内容の[　　]は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
導入 (5 分)	1. P1・P2 の地図を見て、土岐川・庄内川・矢田川の周りにあるさまざまな地域について、意識を向ける。また、川がどんな利用をされているか表現し、川は、利用されるだけでなく、文化や生き物のすみかとしての役割をもっていることを確認する（P3・P4 の写真をヒントとして扱う）。 発問：【P2 考えてみよう】 みなさんの学校の近くを流れている川を知っていますか？ 土岐川・庄内川・（矢田川）の周りには、さまざまな地域がありますね。 みなさんは、どんな地域に行ったことがありますか？ 川は、どんなことに利用されているか知っていることはありますか？また、遊びにいったことはありますか？ [・名古屋城の近くの堀川でお花見をした ・土岐で川遊びをした ・祭りにいった ・庄内緑地公園で遊んだ　等]	・川の周り（流域の範囲）の身近な地域を想像し、「流域」に含まれる範囲をイメージする ・川はめぐみをもたらすものであること（生きもののすみか、人々の河川利用があること）を学ぶ	
展開① (10 分)	2. P10～にて、平成 23 年 9 月台風第 15 号豪雨について学ぶ。 水害時に起こる危険や、他者・地域にどんな困りごとがあるかを考え・想像することで、その後の授業において「わたしたちがとるべき行動」を考える際の土台をつくる。 発問：（P11　考えてみよう） どんなことが起きたのか、どんなことに困ったか、大変だったかを考えてみよう [（例は P38 にも記載） ・車が水没した ・病院にいけなくなった人もいた 等] 発問： この浸水しているお家がみなさんの友達や親せきの家だったら、どんなことに困っていると思いますか	・水害が自分たちの生活や身の回りに影響を及ぼす可能性を考え、自分事ととらえる ・土岐川から水があふれたのではなく、土岐川に入りきれなかった支川の水があふれた	

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
	・家の中がぐちゃぐちゃになって生活できない ・閉じ込められてるかもしれない ・停電して連絡がとれないかもしれない		
展開② (10 分)	3. この地域のとくちょうを学ぶ P5・P6 にて「流域」の概念を学ぶ P7～P9（３つの特徴のうち、特に自分達の住む地域の特徴に近いもの１つでもよい）にて、中流域の特徴の学ぶ。 この地域の特徴（土地の成り立ちなど）を学ぶ。自分達に身近な地域の特徴でイメージすることで、水害のリスクが高い地域であることを、実感する。 発問： この地域は、昔どんな場所だったか、水害の危険性はないのか、みてみましょう （治水地形分類図や、地名などから、水害のきけんがあるところなのか考える）	・理科の天気・社会の上下水道などで学んだことを関連づけ、「水の循環」に関係する地域であることを認識させる。 ・自分たちに身近な地域が、昔どんなところだったか確認するとともに、水害の危険性があることに気づく	P20　もっと知ろう かつての土地利用状況から、浸水しやすい地域かどうかを知る（水に関わる地名を調べる） ・地理院地図（治水地形分類図）
展開③ (15 分)	4.　P22～P24 にて、水害により生じる身の危険性を学ぶ 発問：【P22 考えてみよう】 雨が降ったとき、まわりのようすはどのように変化するでしょうか。そして、わたしたちにどのような影響があるでしょうか。（P23～24 の表から読み取る） 表から、こんなときはどうしたらよいと思いますか ・家にいるときに、「はげしい雨」がふってきた ・友達の家や習い事など、家以外で、「はげしい雨」がふってきた ・外にいるとき、いつも通っている道に、水がたまっていた	・水害は、いきなり起こるのではなく、雨や川・まわりのようすが変化していくことを学ぶ ・大雨は、数分ですぐやむ場合は、一部で内水はんらんが起きたり、小さい川の水位が高くなることはあるが、大きい川の水位が高くなることは少ない ・しかし、大雨が数時間続くなど、<u>長引くと、</u>大きい川の水位もあがり、外水はんらんがおきる可能性がある →よって、<u>今後の雨のようすをしらべて、まわりのようすが避難できるなくなる前に避難することが</u>大事	※【用語】線状降水帯 同じ場所で大雨が降り続く場所のため、水害がおきやすい 気象庁からは、線状降水帯が発生したとき、また、30 分以内に発生すると予測されたら、情報をだして、注意をよびかけることにしている

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
	・家にいるときに、「はげしい雨」がふってきた ・友達の家や習い事など、家以外で、「はげしい雨」がふってきた →おうちの人と連絡をとって、すぐにやむような雨かどうかしらべてもらう →ながびくような雨のときは、今いる場所が安全なところか、おうちの人や一緒にいる大人に確認してもらう →安全でないときは、大人と一緒に、安全な場所に移動する ・外にいるとき、いつも通っている道に、水がたまっていた →いつも通っている道でも、水が深くたまって足元が見えない場合は、無理にとおらない　等		
終末 (5 分)	5. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。	・まずは、川の危険な一面よりも川の良さを伝える。 ・水害が起こった時にとるべき行動を考えることができるように、「水害がおこるとわたしたちはどのような点で困るのか」を想像できるようにする。	

2時間目 水害時にわたしたちがとるべき行動、みんなで取り組む水害へのそなえ

本時のねらい（目標）

水害時のとるべき行動を自ら考えるとともに、水害を起こさないように、また、被害を拡大させないようにする対策は、地域のさまざまな人びとが関わっていることを学び、自分たちには何ができるかを考える。また、自分たちを含む地域の人々が協働して水害にそなえる・水害をへらす取組が「流域治水」であり、取組を進めるために他者への思いやりが大切であることを学ぶ。

※学習内容や活動内容の［　　］は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
導入 （5 分）	1. P22～P24 にて、水害により生じる身の危険性を復習する 発問： 危険な場所にいる場合には、避難が必要ですね では、学校やみなさんのおうちが、大雨のときにとどまっていて大丈夫な場所なのか、確認していきましょう		
展開② （20 分）	2. P25～P31 にて、ハザードマップでの確認の方法、どのようなところでは避難が必要か、どこに避難するかの考え方を学び、家庭で家族と一緒に確認できるようにする。 【用意するもの】 ・洪水・（あれば）内水ハザードマップ （該当地域のものを紙で印刷） ・確認した結果を記載する用紙 （ワークシート） ・筆記用具 【確認手順】 ・P26～の①～④を、ハザードマップで確認する。 ・ワークシートのフローに沿って、⑤の「大雨のときにとどまっていても安全な場所」か確認する ・P29～の⑥危険な場所の場合は、避難先をさがす（フローに従い、指定避難場所以外も想定する）	・家で確認するときは、紙がない場合でも、インターネットで、「わがまちハザードマップ」からも確認できることを、おうちの方に伝えるように促す ・避難先は、家の事情や移動手段もあるため、おうちの方と相談することを推奨	・ハザードマップポータルサイト ・ワークシート

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
	発問：(P29　考えてみよう) 地域の人みんなが避難場所にいったら、避難場所は満杯になってしまいます。 地域には、遠くに移動できない人たちもいます。 そのような人たちも、全員が安全な場所にいられるようにするにはどうしたらよいでしょうか？ ・マンションの上の階が安全な人は避難場所にはいかない ・従妹の家が浸水しないところにあるから、道路が浸水する前に車で行って、避難させてもらう ・となりに住んでる、一人暮らしのおばあさんに声をかけて、一緒に避難する 等	・道路が浸水しはじめている場合、移動にも危険がともなうことを再度確認する ・体育館などの「避難場所」にいくことだけが「避難」ではない。安全・備えを確認して、垂直避難（マンションなどの建物の上への移動）や、知り合いの家に身をよせることも「避難」であり、地域の方々への思いやりになる （P30 の※に記載）	・避難が必要か、どこに避難するかがわかったら、「いつ避難行動をとるか、何をするか」もきめておくことが望ましい→「マイ・タイムライン」の作成を推奨（作り方は、下記で確認可） ・岐阜県　災害・避難カード 逃げキッド（全国版）
展開② (5 分)	3. P32～33 にて、水害へのそなえや、治水対策を行うために、さまざまな人が取組を行っていることを学ぶ 主発問： 水害による被害をおさえるために、どういう人たちがいるでしょうか。 ・川を管理する人、ダム等の操作をする人、天気を予想する人、避難情報を発令する人、情報を伝える人、地域の人の避難を手助けする人 主発問： もし水害がおきてしまったときには、どんな人たちが活動しているでしょうか。 ・水を排水する人、救助する人、片付けを手伝う人、ボランティアの人	・導入で挙げられた意見をまとめながら、いろんな人たちが地域のために取り組んでいることを学ぶ。	資料 02_水害へのそなえに取り組む人々 （P32～33 の写真だけをみて、何をしている人たちかを考える）
展開② (10 分)	4. P34～36 にて、協働での取組である「流域治水」をもっと推進する必要がでてきたこと、自分たちは何ができるかを考える。		

流れ	学習内容や活動内容	指導上のポイント	その他活用できる資料
	主発問： いろいろな人々が取組をしているけれど、最近は大雨がふえていて（P34 のグラフ）、被害も大きくなっています これまでの取組だけでは足りなくなってきているので、もっと地域のみんなが一緒になって行う取組が必要です。そのような取組を「流域治水」と言います。 （P34 の図で、どんな取組があるか、クイズ） （P36　考えてみよう） わたしたちが、家や学校でできる流域治水の取組は何があるでしょうか？ ヒントは、「ふだん水(みず)を多(おお)く使(つか)うこと」「水害(みずがい)へのそなえ」です。 （例は P39 にも記載） ・大雨のときは、お風呂のお湯を流さない、洗濯を後にする （家庭から流す水の量をへらす） ・ハザードマップを確認したり、避難の準備をする、避難のためにどんな情報を確認するか前もってしらべておく ・いきもの調査や、川遊びなどに参加して、もっと川のことを知る P37 にて、地域との助け合い（災害弱者への声かけ、一緒に避難するなど）も、自分達のできる取組であることを伝える。	・地域を守るために多くの人々が取組をおこなっている、自分達もできることを考えることで、「流域治水」の取組を自分事として考える	資料 03_流域治水の取組紹介 ・P34 のグラフ【関連：5 年生算数の平均の考え方】 ・P34 の流域治水の主な取組の例（青字）についてのクイズ
終末 (5 分)	5. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。	・水害で被害にあわないためには、事前～大雨時に、行動をとることが大事であることを伝える。 ・ふだんから、川に流す水の量をへらすためにできることを考えたり、自分達できる取組をする「流域治水」は、『地域への思いやり』の取組であることを伝える。 ・将来、どんな地域に住むことになっても、学んだことを思い出せるように、おうちでも、大雨がふりそうなとき、梅雨や台風の時期の前などに、見直してほしいことを伝える。	